

岩手看護学会誌

巻頭言

岩手の看護の発展を目指す実践知の共有を	菊池和子	1
---------------------	------	---

原著論文

栄養状態が気管内吸引による粘膜損傷に及ぼす影響についての基礎研究 ーウサギ気管を用いた検討ー	平野昭彦	3
A Cross Cultural Comparison of Knowledge of Hypertension, Health Promoting Lifestyle, and Spirituality in Residents with Hypertension from Iwate Japan and Southeastern North Carolina USA Jeanne Kemppainen, Perri Bomar, Kazuko Kikuchi, Hiroaki Ambo, Yuriko Kanematsu, Michiko Tsuboyama, Akiko Ando, Kyoko Noguchi, Sumiko Chiba		12

事例報告

糖尿病患者の運動療法のモチベーションを高める看護援助の試み	箱石恵子	21
-------------------------------	------	----

学会記事

会告 岩手看護学会第4回学術集会開催		29
平成22年度第2回岩手看護学会理事会議事録		31
平成22年度第1回岩手看護学会評議会議事録		34
平成22年度岩手看護学会総会議事録		37
同資料		40
岩手看護学会会則		47
岩手看護学会役員名簿		50
岩手看護学会入会手続きご案内		51
入会申込書		52
岩手看護学会誌投稿規則		53
Journal of Iwate Society of Nursing Science Submission Guidelines		57
論文投稿支援のご案内		61
査読者一覧・編集後記		63

第4巻 第2号 2010年12月

岩手看護学会

Iwate Society of Nursing Science

巻 頭 言

岩手の看護の発展を目指す実践知の共有を

今年度の第3回岩手看護学会学術集会は「人と場をつなぐ看護 - それぞれの専門領域の重なりに光をあてて -」のメインテーマで開催されました。一般演題では、看護の実践知をまとめたものや、研究疑問に対して行った研究の成果発表があり、各会場で活発な意見交換が行われました。日ごろ、看護職の方々が疲弊している状況を目の当たりにしておりましたので、この学会に参加することで、元気になれるように感じました。

私が地元の岩手で看護学生だった頃、日本には、看護系の大学が3校でした。看護教育カリキュラムが改正されたことを受けて、学院祭に向けて、一般の方々に看護教育について紹介するために、先輩と共に看護教育カリキュラムについて勉強しました。そして、看護職者に求められる資質を考えた時に、将来、看護教育は大学教育が基本である、ということ学院祭で一般市民に説明したことが思い出されます。それから数十年を経て、看護職者が待ちに待った県立大学の開学となりました。私は、それまで看護教員を務めるかわら、岩手県看護協会の教育委員として学会の仕事や、県内看護職者の生涯教育の企画運営に携わってきました。大学の開学と共に大学人の一人となった今、実践現場の方々と共に共同研究をすすめ、現場の実践知を共有したいと願っています。

実践知とは、P.ベナー(1999)は「看護ケアの臨床知 - 行動しつつ考えること」(井上智子監訳)のなかで、「技能を習慣的に使い実践に従事しながら得られた知識」としています。実践の現場で、実践知が多く存在するものと思われます。実践者と研究者が連携、協働し、その実践知を共有していきましょう。

岩手看護学会は、看護職者だけではなく、看護に関心のある方や、他県の方も含めることができます。学会において研究成果や実践の成果を発表することで、参加者と討論し更なる深まりをもたせることができます。そして、記録として学会誌へ投稿することで、研究で得られた知見を共有でき、蓄積することとなり、看護の専門性を高めることとなります。

看護職者が対象とする一般の方々、患者さんやそのご家族、生徒や学生に、蓄積された知見を生かし、健康をキーワードとしたより良い生活ができるような支援をしていくことを願っています。そして岩手から看護の発信を行っていかれたらと願っています。

平成22年12月

岩手看護学会理事
菊池 和子

<原 著>

栄養状態が気管内吸引による粘膜損傷に及ぼす影響についての基礎研究 - ウサギ気管を用いた検討 -

平野昭彦

岩手県立大学看護学部

要旨

安全な気管内吸引圧の基礎研究は、健常な動物を用いていたが、吸引を受けるのは健常な人間ではなく患者であることから、動物実験でも様々な病態を想定して実施する必要がある。今回、臨床で行われている吸引の状況を考慮し、病的な状態の1つである栄養不良に着目した吸引圧の基礎研究を行った。

ウサギ11匹を、餌を与えず水のみで20日間以上飼育し、栄養不良のウサギを作製した。このウサギを深麻酔下で犠牲死させ、気管を摘出し、切開した。この粘膜上に3孔式カテーテルの2孔を塞ぎ、塞がなかった1側孔を粘膜上に置き、密着させて横に移動させた。1匹のウサギに気管の3～4か所を異なる圧で吸引した。吸引した粘膜は切り出して、組織標本作製し、組織学的に観察した。その結果、吸引圧100mmHg、200mmHg、300mmHgでは、栄養不良状態のウサギの方が健常なウサギよりも広範囲に基底膜まで達する損傷が生じる頻度は高かった。栄養状態は吸引による粘膜損傷に影響を及ぼすものと考えられた。

キーワード；気管内吸引 吸引圧 気管粘膜損傷 栄養状態 ウサギ

(2010年4月18日受付, 2010年8月31日受理)

<Original Article>

Effect of Nutritional State on Susceptibility of the Tracheal Mucous Membrane to Injury Caused by Application of Suction Pressure: A Basic Study Using Rabbits

Akihiko Hirano

Iwate Prefectural University, Faculty of Nursing

Abstract

Healthy animals were used in a basic study to determine the safe level of suction pressure. As suction is not applied to healthy humans but to patients, any animal experimental study needs to be performed with due consideration to the pathological states found in human patients. Therefore, the present basic study of safe suction pressure was performed with reference to malnutrition as a representative pathological state.

Eleven rabbits were supplied with water but deprived of food for 20 days to induce malnutrition. They were then sacrificed under deep anesthesia, and their tracheae were removed and cut down the centerline. A catheter with 3 holes, of which the one at the tip and one of the two on the side were closed, was then placed in apposition to the tracheal mucous membrane and moved sideways along it. Several parts of the tracheal mucosa were subjected to varying levels of suction pressure via the catheter holes. After application of suction, the mucous membranes were resected and prepared into histological specimens for pathological assessment.

At suction pressures of 100, 200 and 300 mmHg, specimens taken from malnourished rabbits showed a higher frequency of wide injury to the basement membrane than specimens from healthy rabbits.

These findings indicate that nutritional state affects the susceptibility of the tracheal mucous membrane to injury caused by application of suction pressure.

Keywords: tracheal suction, suction pressure, tracheal mucous membrane injury, nutrition state, rabbit

<Original Article>

A Cross Cultural Comparison of Knowledge of Hypertension, Health Promoting Lifestyle, and Spirituality in Residents with Hypertension from Iwate Japan and Southeastern North Carolina USA

Jeanne Kemppainen¹⁾ Perri Bomar¹⁾ Kazuko Kikuchi²⁾ Hiroaki Ambo³⁾
Yuriko Kanematsu⁴⁾ Michiko Tsuboyama⁴⁾ Akiko Ando⁵⁾
Kyoko Noguchi⁶⁾ Sumiko Chiba⁶⁾

¹⁾University of North Carolina Wilmington ²⁾Iwate Prefectural University
³⁾Iwate Seiwa Hospital ⁴⁾Former Iwate Prefectural University
⁵⁾Kobe Continuing Education Center, Japanese Nursing Association
⁶⁾Takizawa Village Office, Iwate

Abstract

Objectives: The aim of this study was to identify and compare knowledge about hypertension, health promoting lifestyle, and level of spirituality/religiosity in persons with hypertension from Iwate, Japan and Southeastern North Carolina, USA.

Methods: A cross-sectional design was used to explore differences and similarities between rural residents receiving care through a health clinic and a prefectural hospital in Iwate and through primary care clinics in southeastern North Carolina.

Results: The convenience sample included 212 Japanese (67%) and 105 North Carolina residents (33%). Compared with North Carolina, rural residents in Iwate had an increased systolic blood pressure (147.0 vs. 130.4) and increased total cholesterol (204 in Iwate vs. 191 in North Carolina). North Carolina participants had increased BMI rates (31.5 in North Carolina vs. 25.5 in Iwate) with an average waist circumference of 102 cm. While Iwate participants had a higher correct answer rate on the Knowledge of Hypertension Survey (77.9% vs. 61.2%), North Carolina participants scored higher on the Belief in a Higher Being in Healing Scale (16.3 vs. 4.3). In Iwate, behaviors involving health responsibility ($p<.000$), nutrition ($p<.000$), interpersonal relationships ($p<.000$), and stress management ($p<.000$) were higher than those of residents in North Carolina. No differences were found on the HPLP II between participants of both countries on physical activity and spiritual growth.

Conclusions: The major challenge in caring for persons with hypertension is improving health literacy for this chronic disease and the benefits of lifestyle modification. Study findings also emphasize the critical need for developing and testing interventions aimed at hypertension, weight control, and cholesterol. Relevant spiritual practices are important internationally and also need to be assessed.

Keywords: Hypertension, Health Promotion, Cross-cultural, Spirituality, Pender

(2010年2月16日受付, 2010年11月18日受理)

<原 著>

岩手県とノースカロライナ州南東部に居住する高血圧者の高血圧についての知識、健康増進ライフスタイル、スピリチュアリティの比較

ジーン ケンペイネンペリ ポマー¹⁾ 菊池和子²⁾ 安保寛明³⁾ 兼松百合子⁴⁾
坪山美智子⁴⁾ 安藤明子⁵⁾ 野口恭子²⁾ 千葉澄子⁶⁾

¹⁾ ノースカロライナ大学ウィルミントン校看護学部

²⁾ 岩手県立大学看護学部

³⁾ 岩手晴和病院

⁴⁾ 元岩手県立大学看護学部

⁵⁾ 日本看護協会神戸研修センター

⁶⁾ 滝沢村役場

要旨

岩手県とノースカロライナ州に居住する高血圧者の高血圧についての知識、健康増進ライフスタイル、スピリチュアリティのレベルを明らかにし、比較することを目的とした。岩手県の1保健センターと1県立病院の外来と、ノースカロライナ州南東部のプライマリーケアクリニックにおいて、研究参加を承諾した岩手住民212人と、ノースカロライナ住民105人を対象として質問紙調査と血圧測定、身長・体重測定を行なった。

岩手住民(I)はノースカロライナ住民(NC)と比べて、収縮期血圧値と総コレステロール値が有意に高かった。NCのBMIはIに比べて有意に高かった。高血圧の知識の正答率はIがNCより有意に高かった。宗教性スケールでは、NCの方が有意に高かった。健康増進ライフスタイル(HPLP)では、Iは健康意識($p < .000$)、栄養($p < .000$)、人間関係($p < .000$)、ストレス管理($p < .000$)、総点($p < .000$)において、NCより有意に高かったが、血圧値との相関は見られなかった。NCでは、運動、栄養、スピリチュアリティ、人間関係において、収縮期血圧並びに拡張期血圧との有意な相関がみられた。

本研究の結果は、文化の特徴に基づく、高血圧、体重、コレステロールのコントロールを目指した健康増進介入方法の開発と検証の必要性、スピリチュアルな実践の国際的重要性を示唆するものであった。

キーワード 高血圧 健康増進 異文化間 スピリチュアリティ ペンダー

<事例報告>

糖尿病患者の運動療法の モチベーションを高める看護援助の試み

箱石恵子

岩手県立中央病院

要旨

糖尿病の血糖コントロールに必要な療養行動は生活習慣であるがゆえに、なかなか改善できない、継続されないなど、困難な状況を示す報告が多い。糖尿病患者に対して糖尿病に関する知識を提供し、行動変容のための動機づけや行動が継続されるような援助が必要である。

筆者はジョンソン行動システムモデルの目標設定や行動選択を強化するために、自己決定理論を取り入れてモチベーションを高め、変化を把握する介入方法を考案し、60歳代の男性2型糖尿病患者に、冬季を含む1年間実施し、その過程を分析した。

その結果、血糖コントロールのために運動の目標設定と達成に向けて行動選択し、実践するための動機づけ、更に運動継続がジョンソン行動システムモデルとSDTを併せた介入によって可能となった。

外来における患者との関わりのなかで、この看護介入を患者の反応・変化を読み取りながら、その反応・変化に添って進めることは、感情の表出と回想を促し、リフレクションを促進し、患者のネガティブな感情をポジティブに変化させ、運動療法の中断を防ぐことに役立ったと考えられた。

キーワード；糖尿病 運動療法 ジョンソン行動システムモデル 自己決定理論 (SDT)

(2010年7月12日受付, 2010年11月18日受理)

<Case Report>

Attempt of Nursing Intervention to Improve the Exercise Motivation of Diabetic Patients

Keiko Hakoishi

Iwate Prefectural Central Hospital

The aim of this study was to find the method of effective nursing intervention for patients with diabetes to continue exercise for one year including winter. Johnson Behavioral System Model and Self-Determination Theory(SDT)were the theoretical base of the intervention.

Nursing intervention was provided for a male type2 diabetes patient in his sixties. The patient set a goal of exercise, behavioral choice and awareness were expanded, and action was changed. Additionally, the nursing intervention using the reflection based on SDT was useful because the motivation of exercise of the diabetes patients became intrinsic and was maintained.

Keywords: Diabetes, Exercise, Johnson's Behavioral System Model,
Self-Determination Theory(SDT)

会 告

第4回岩手看護学会学術集会のご案内

第4回岩手看護学会学術集会を下記の通り開催します。演題募集の案内は追ってお知らせします。会員の皆様の演題申し込みと多数のご参加をお待ちしています。

期 日：平成23年10月15日(土)

会 場：岩手県立大学

テ ー マ：現場における気づきの共有・集積を確かな知見へ 明日の元気のために

特別講演：真田弘美氏（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻
老年看護学/創傷看護学分野教授）

2010年11月

第4回岩手看護学会学術集会

会長 菊池和子(岩手県立大学看護学部)

平成22年度 第2回岩手看護学会理事会議事録

日 時：平成22年8月28日(土)10:00～12:15

場 所：いわて県民情報交流センター(アイーナ)7階 学習室5

出席者：武田，畠山，浅沼，安藤，兼松，木内，工藤，平野

委任状：小山，菊池，三浦

欠 席：白畑，稲葉文香(辞任申請)，稲葉洋子(辞任申請)

配布資料：資料1 平成23年度事業計画(案)

資料2 平成23年度予算(案)

資料3 平成22年度評議員会次第(案)

資料4 平成21年度事業活動報告

資料5 平成21年度収支決算報告(案)，監査報告

資料6 平成22年度事業計画(修正案)

資料7 平成22年度修正予算(案)

資料8 平成22年度総会次第(案)

資料9 入退会審査資料

資料10 平成22年度庶務報告

資料11 平成22年度編集委員会活動経過

1. 開会

出席8名，委任状3名であり，会が成立することが確認された。

2. 理事長挨拶

第3回学術集会が準備されていることが話された。

3. 議事

1) 審議事項

(1) 平成23年度事業計画(案)

平野理事より資料1に基づき説明があり，異議なく承認された。

(2) 平成23年度予算(案)

木内理事より資料2に基づいて説明があった。支出の部では，平成22年度予算と比較して，編集委員会活動費が若干減額になり，広報活動費は，収支の均衡を図るため減額になったことが説明された。

広報活動費の減額に関して，ホームページ管理を担当している白畑理事からの伝言として平野理事から以下の補足説明があった。前任の井上前理事から引き継ぎを行った。今のレイアウトに変更がなく，更新だけなら外部に依頼しなくても運営できる。引き継ぎ後に行ったこととして，トップページのリンクに追加を行った。HP内容の改善点について意見をいただきたい旨の話があったことが説明された。

出席者から，HPについて以下の意見があった。更新が遅れていたことが問題であったので遅れないで更新すること，更新時期を決め，更新年月日とHP管理責任者名を明示すること，学会記事のみではなく研究関連記事(例えば，看護学部で行っている研究会，地域貢献研究公募など)を「ニュース」として掲載する，リンクに岩手看護実践センターを追加する，英文の投稿規則を掲載する他，海外の研究者が投稿の仕方が分かるように英語表記を加える，トップページメニューに「役員」を追加し，理事，評議員の一覧をHP上に掲載する。

以上について運営していくのに年間5万円の予算で可能か白畑理事に確認する。

(3) 評議員会次第(案)

平野理事から資料3～7に基づいて説明され，異議なく承認された。

(4) 総会次第(案)

平野理事から資料8に基づいて説明され，異議なく承認された。

(5) 理事の辞任の承認とその補充について

武田理事長より稲葉文香理事から辞任の申し出があったことが説明され、異議なく承認された。現任で対応することで、理事の補充はしないことで合意した。

(6) 編集委員の辞任の承認とその補充について

兼松理事より井上編集委員から辞任の申し出があったことが説明され、異議なく承認された。後任に遠藤良仁会員（岩手県立大学）が推薦され、承認された。任期は、平成23年3月31日まで。理事長より遠藤会員に委嘱の要請を行う。

(7) 会員入退会について

浅沼理事から資料9について説明され、異議なく承認された。

(8) 学会誌配布先について

兼松理事から、東北6県の大学図書館、教員が元所属していた大学、病院等に配布してはどうかという提案があった。

学会の存在の認知、学会誌への投稿を促進するためには、岩手県内の主な病院、岩手県看護協会への寄贈することで合意した。岩手県看護協会へはバックナンバーを寄贈する。他の大学・施設、どの巻号を寄贈するかについては、編集委員会で、本部に残しておく部数、残部を考慮して検討する。

(9) 総会議事録の作成と点検について

議事録の作成を庶務担当が行い、署名人に会員を依頼することで合意した。

2) 報告事項

(1) 庶務担当より

浅沼理事より資料10に基づき説明があり、会員数は175名（8月27日現在）であることが報告された。退会者の中には、学術集会での発表が終わると退会している会員がいる旨が補足説明された。

(2) 編集委員会より

兼松理事から資料11に基づいて説明された。学会誌第4巻1号のweb版は6月30日発刊したが、冊子体は8月となった。冊子体発刊が遅れないように作業を進めたい。

投稿論文数が少ないため、魅力ある学会誌にするためにどうしたらよいか考えている。学術集会のプログラム、一般演題名を掲載する、会員名簿、関連学会の情報、依頼論文、特集記事、投稿支援窓口がどのように支援するのかを説明した記事、等の掲載などが考えられることが説明された。

会員名簿については、入会時に、「関心のあるテーマ・領域」について記載してもらっているため、そのグループごとに分けて掲載することが提案された。

現在の編集委員の任期は、平成23年3月31日までであることが確認された。

(3) 第3回学術集会企画委員会より

工藤理事から説明があった。一般演題に12題の申し込みがあった。現在の事前参加申し込み数は約30人。当日参加者を含めて参加者は、130人を見込んでいる。事前申込者へ学術集会プログラムを送付予定であることが報告された。

出席者から、学術集会プログラムは、全会員へ送付してほしいという意見があり、送付することになった。

(4) 第4回学術集会企画委員会より

平野理事から、第1回企画委員会を開催し、開催期日と会場の確認、全体テーマ、プログラムを検討したことが説明された。一般演題発表の他、ミニシンポジウムを企画する方法で検討している。特別講演に真田弘美先生（東京大学）をお呼びすることになり承諾を得たことが報告された。

(5) その他

武田理事長より、第1回理事会において、辞任した稲葉監事の後任に菊池田鶴子氏（岩手県立江刺病院）が推薦され、同氏から就任の同意が得られたことが報告された。

3) その他

現編集委員の任期が平成23年3月31日であり、年度内に新編集委員の選出が必要であるため、第3回理事会は、

平成23年 2 月または 3 月を検討することが確認された .

4 . 閉会

(記録 平野昭彦)

平成22年度 岩手看護学会評議員会議事録

日 時：平成22年10月3日(日)10:30～12:30

場 所：いわて県民情報交流センター7階岩手県立大学アイーナキャンパス学習室4

出席者：浅沼優子，兼松百合子，菊池和子，木内千晶，工藤朋子，武田利明，田中千尋，箱石恵子，
林本郁子，平野昭彦，三浦まゆみ，三浦幸枝，村上繁子 以上13名

委任状：安藤広子，小山奈都子，白畑範子，菊池田鶴子 以上4名

欠席者：畠山なを子 以上1名

辞任申請者：稲葉文香，稲葉洋子

(五十音順，敬称略)

配布資料：理事・監事・評議員名簿(資料1)

平成21年度事業活動報告(資料2)

平成21年度収支決算報告(案)，平成21年度会計監査報告(資料3)

平成22年度事業計画(修正案)(資料4)

平成22年度収支予算(修正案)(資料5)

平成23年度事業計画(案)(資料6)

平成23年度収支予算(案)(資料7)

平成22年度総会次第(資料8)

平成22年度第2回理事会議事録(資料9)

理事会報告(資料10)

平成22年度庶務担当報告(資料11)

平成22年度編集委員会経過報告(資料12)

会員紹介について(参考資料)

次第

1. 開会

出席者13名，委任状4名であることから会則19条3項に基づき成立することが確認された。

2. 理事長挨拶

武田理事長より，学会誌への投稿が少ないので投稿を呼びかけて欲しい，特に臨床現場からの投稿をお願いしたい旨話があった。

3. 議事

1) 審議事項

(1) 平成21年度事業活動報告

平野理事から資料2による説明があり，平成21年度は，前年度に比べて入会者が減少し，退会者が増加したことが報告された。原案どおり承認された。

(2) 平成21年度収支決算および平成21年度会計監査報告

菊池理事から平成21年度収支決算について資料3による報告があった。また，武田理事長から平成21年度会計監査報告について資料により説明があり，欠席した白畑監事が監査を行い適正であったことの報告を受けたことが説明された。以上，原案どおり承認された。

(4) 平成22年度事業計画(修正案)

平野理事から資料4により説明があり，学術集会において「めんこいセミナー」の開催を本部企画で行っているがこれを明示したこと，学会HPの運営は，井上前理事が担当し，個人的負担に依存していたが，これを外部委託するなどして広報活動をより充実させるためHP運営費として計上したことが提案され，原案どおり承認された。

(5) 平成22年度収支予算(修正案)

菊池理事から資料5により以下説明された。収入の部では、平成21年度総会の時点では不明であった繰越金
が確定したのでこれを組み込んだ。支出の部では、事業として「めんこいセミナー」の開催、学会HP等の広報
活動に伴う費用が生じたためこれを計上した旨が説明された。資料では、「めんこいセミナー 開催費」「広報活
動費」について、平成21年度決算額と平成22年度予算額が0円と記入したが、各年度において予算の費目に立
てていなかったことからこれを空欄とする旨が説明された。

これに対して、今年度の「めんこいセミナー」講師は、学会員であることから旅費は不要ではないかという
意見があり、謝金1万円とすることで合意された。費目「めんこいセミナー開催費」は10,000円、減額された
4万円は「予備費」に加算され237,829円に修正された。

費目「編集委員会活動費」の備考は、学会誌発行費は現状に合わせて1回20万円に減額し、講演テープ起こし、
外部査読者謝金を追加することで合意した。

(5) 平成23年度事業計画(案)

平野理事から資料6により説明され、原案どおり承認された。

(6) 平成23年度収支予算(案)

菊池和子理事から資料7により以下が説明された。収入の部では、会費を会員180人として算出し、平成22年
度の収支決算が確定していないため繰越金と合計は空欄であることが説明された。支出の部では、収入の合計
が確定されていないため予備費は空欄としてあり、合計は予備費以外の合計額であることが説明された。

費目「編集委員会活動費」の備考の学会誌発行費は、平成22年度修正予算案と同様に20万円に変更し、講演
テープ起こし、外部査読者謝金等を追加する。めんこいセミナー開催費は、謝金のみを計上し1万円に修正を
することで合意した。

(7) 平成22年度総会次第

平野理事から資料8により説明され、議事録署名人がこれまで置かれていなかったが、理事会では内容の透
明性を確保する観点から必要と考え新たに次第に加えたこと、議事録はこれまでどおり庶務担当理事が作成す
ることが説明され、原案どおり承認された。

(8) 理事、監事の辞任の承認および補充について

武田理事長より、稲葉洋子監事と稲葉文香理事から辞職の申し入れがあり、理事会ではこれを受理したこ
とが報告され、異議なく承認された。次に、武田理事長より監事の後任に、選挙で次点であった菊池田鶴子氏
(岩手県立江刺病院)の推薦があり、承認した。理事については、会則に「10数名(理事長・副理事長を含む)」
と規定されていることから、現理事で対応し、補充は行わないことが提案され、これを承認した。

(9) 岩手看護学会第5回学術集会(平成24年度)会長の候補選出について

武田理事長より、畠山なを子氏(岩手県立磐井病院)を推薦する旨提案され、異議なく承認された。

2) 報告事項

(1) 理事会報告

平野理事から資料10により報告があった。

(2) 庶務担当より...会員について

浅沼理事から資料11により以下の説明があった。平成22年9月30日現在の会員数は171名である。会費未納者
の平成21年度17名は、平成22年度でも未納である会員が多く、2年間会費未納であることから自動的に退会と
なる。

(3) 編集委員会

兼松理事から資料12により以下の報告があった。学会員にとって魅力ある学会誌にするために会員の研究領
域の掲載、依頼原稿等を今後検討していくこと。養護教諭へのPRについては、学校保健会の養護教諭部会と岩
手県教育委員会に学会誌を送付することを検討していること。

(4) 第3回学術集会企画委員会

三浦まゆみ理事から、看護学校2校より合計105人の参加申込があり、参加申込は、会員52人、非会員25人と
合わせて合計182人となったことが報告された。

(5)第 4 回学術集会企画委員会

菊池和子理事から、第 4 回学術集会を平成23年10月15日(土)岩手県立大学において開催する。全体テーマは、「現場における気づきの共有・集積を確かな知見へ 明日の元気のために 」(仮題)とし、特別講演には、真田弘美先生 (東京大学) にお願ひし承諾を得られたことが報告された。

3) その他

武田理事長から、現編集委員は、平成23年 3 月で任期が満了となるが、兼松委員長には引き続き務めていただきたい旨依頼された。編集委員には臨床現場の人を加える、現編集委員で任期の途中から加わった委員には引き続き務めてもらいたい、などの意見があった。三浦まゆみ理事から、次期編集委員を務めたい旨意向が示された。

浅沼理事から、第 2 回理事会で、会員相互の交流を促進する方法として、学会誌に会員の関心領域を掲載することを検討されたのを受けて、関心領域を整理した参考資料が提案された。これに対して、関心領域の名称は提案どおりでよい、所属の記載は不要である、掲載の可否は改めて確認を取ることで合意した。

4 . 閉会

(記録 平野昭彦)

平成22年度 岩手看護学会総会議事録

日 時：平成22年10月16日(土)12:00～12:45

場 所：いわて県民情報交流センター（アイーナ）8階会議室804

配布資料：資料1 理事会・評議員会報告

資料2 庶務報告

資料3 平成22年度編集委員会活動経過報告

資料4 平成21年度事業活動報告

資料5 平成21収支決算報告(案), 監査報告

資料6 平成22年度事業計画(修正案)

資料7 平成22年度事修正予算(案)

資料8 平成23年度事業計画(案)

資料9 平成23年度予算(案)

資料10 理事・監事・評議員名簿(案)

1. 開会

平野理事より、出席者28名、委任状46名、合計74名、現在の会員数171名であることから会則第21条3項に基づき学会総会が成立することが確認された。

2. 理事長挨拶

武田理事長より以下挨拶があった。

・当学会は新しい、地方の学会であるが、学会誌発刊を大きな特色とし、医中誌などを通じて実践を発信している。研究で困っている時に支えあうことで、看護実践および学会がより発展していけることを期待している。

3. 議長選出

武田理事長の進行により、会則第21条1項に基づき第3回岩手看護学会学術集会の三浦まゆみ会長が議長として選出された。

7. 議事録署名人選出

出席者からの推薦なし。事務局から遠藤良仁氏(岩手県立大学)、及川紳代氏(岩手県立大学)が推薦され承認された。

8. 報告

以下の1)から3)について報告され、報告全体について挙手多数にて承認された。

1) 理事会、評議員会報告

武田理事長より、資料1に基づき、平成21年度第3回理事会、平成22年度第1回、第2回理事会、評議員会の開催について報告され、以下について補足説明がされた。平成22年度第1回理事会では、第5回学術集会長候補者について審議を行い、岩手県立磐井病院畠山なを子氏を会長候補とすることについて合意した。第2回理事会では、理事の辞任ならびに編集委員の辞任と補充について審議を行った。それぞれの辞任を承認し、理事の補充は行わないことで合意した。

2) 庶務報告

平野理事より、資料2に基づき、平成22年度の会員数は171名、同年度会費未納者が58名であるため、会費納入への協力について報告された。

3) 平成22年度事業経過報告

(1) 第3回岩手看護学会学術集会

三浦学術集会長より本日第3回学術集会を開催している旨報告された。

(2) 編集委員会

兼松編集委員長より資料3に基づき以下の報告があった。

- ・編集委員は任期が2年となっており、現在の委員の任期は平成23年3月末までである。
- ・第4巻第2号を編集集中であり、現在の投稿論文が少ない状況であるため是非投稿をいただきたい。
- ・資料3の3. について、会員にとって魅力ある学会誌にするために会員の研究領域を掲載する事を検討している。どのような情報を掲載するかについては個別に確認する予定である。少しずつでも掲載していきたいと考えている。

5. 議 事

1) 平成21年度事業活動報告

平野理事より、資料4に基づき報告され、挙手多数にて異議なく承認された。

2) 平成21年度収支決算および会計監査

菊池理事より、資料5に基づき平成21年度収支決算報告案について報告された。武田理事長より、欠席の白畑範子監事の委任状が提出されている旨について説明があり、監査報告として適正な執行が行われたことが代理で報告された。収支決算および会計監査について、挙手多数にて異議なく承認された。

3) 平成22年度事業計画(修正案)

平野理事より、資料6に基づき報告された。4. めんこいセミナーの開催について、従来行ってきたことを明記したものであること、5. 広報活動について、これまで学会ホームページ管理を担当してきた理事が平成21年度末をもって理事任期を終了したと併せて、当該元理事の個人負担となっていたホームページ管理を外注として充実を図るものであることが説明され、挙手多数にて異議なく承認された。

4) 平成22年度収支予算(修正案)

菊池理事より、資料7に基づき、収入として平成21年度繰越金、支出として予備費が確定した修正予算が説明され、挙手多数にて異議なく承認された。

5) 平成23年度事業計画(案)

平野理事より、資料8に基づき、説明され、挙手多数にて異議なく承認された。

6) 平成23年度収支予算(案)

菊池理事より、資料9に基づき、予算化できない収入の繰越金ならびに支出の予備費を空欄としていること、ならびに、支出の広報活動費は平成22年度は初期投資のための予算として500,000円を計上したが平成23年度は維持費50,000円として大幅に減額した旨が説明され、質問なく、挙手多数にて異議なく承認された。

7) 理事、監事の辞任の承認および補充について

武田理事長より以下の通り説明された。理事1名、監事1名より辞任届が提出された。理事については、会則第8条より理事は10数名の定数であり、補充はしないことが評議員会で承認された。監事については、理事選挙の次点者である評議員とすることが評議員会で合意された。該当者である菊池田鶴子評議員より了承を得たため本日の総会で承認を得たい。上記について挙手多数にて異議なく承認された。

8) 岩手看護学会第5回学術集会(平成24年度)会長の選出について

武田理事長より、畠山なを子氏(岩手県立磐井病院)が推薦され、拍手で承認された。

13) その他

質疑および発議はなく、議事は終了した。

6. 第4回学術集会会長挨拶

菊池和子氏(岩手県立大学看護学部)より、平成23年10月15日(土)に岩手県立大学で開催することが報告された。特別講演講師として東京大学真田弘美先生を迎え「現場における気づきの共有・集積を確かな知見へ 明日の元気のために (仮題)」をテーマとして臨床現場が元気になれるような学術集会をしたいとの挨拶があった。

7. 閉会

以上

この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人により以上の議事を認め署名捺印する。
平成22年12月13日

議長： 三浦まゆみ （印 省略）
議事録署名： 及川 紳代 （印 省略）
遠藤 良仁 （印 省略）

平成22年度 岩手看護学会 総会

日 時：平成22年10月16日(土)12:00～12:30

場 所：いわて県民情報交流センター(アイーナ)8階会議室804

次第

1. 開会
2. 理事長挨拶
3. 議長選出
4. 議事録署名人選出
5. 報 告
 - 1) 理事・評議員会報告 資料1
 - 2) 庶務報告 資料2
 - 3) 平成22年度事業経過報告
 - (1) 第3回学術集会について
 - (2) 編集委員会 資料3
6. 議 事
 - 1) 平成21年度事業活動について 資料4
 - 2) 平成21年度収支決算および平成21年度会計監査報告について 資料5
 - 3) 平成22年度事業計画(修正案) 資料6
 - 4) 平成22年度収支予算(修正案) 資料7
 - 5) 平成23年度事業計画(案) 資料8
 - 6) 平成23年度収支予算(案) 資料9
 - 7) 理事、監事の辞任の承認および補充について 資料10
 - 8) 岩手看護学会第5回学術集会(平成24年度)会長の選出について
 - 9) その他
7. 第4回学術集会会長あいさつ
8. 閉会

資料1

理事会・評議員会報告

1. 平成21年度
第3回理事会(学会誌第4巻1号に掲載)
 1. 日 時：平成22年4月3日(土)9:30～10:20
 2. 場 所：いわて県民情報交流センター(アイーナ)7階 学習室5
 3. 出席者10名, 委任状提出者3名, 欠席者1名
 4. 配布資料：平成21年度事業活動報告(案) 資料1)
平成21年度岩手看護学会第3回理事会 編集委員会報告(資料2)
第2回岩手看護学会学術集会報告(資料3)
平成21年度収支決算報告(案)および平成21年度会計監査報告(資料4)
5. 審議事項
 - (1) 平成21年度収支決算報告(案)および平成21年度会計監査報告

2. 平成22年度

1) 理事会

第1回理事会(学会誌第4巻1号に掲載)

1. 日 時: 平成22年4月3日(土) 10:30~12:00
2. 場 所: いわて県民情報交流センター(アイーナ)7階 学習室5
3. 出席者10名、委任状提出者1名、欠席者2名
4. 配布資料: 平成21年度事業活動報告案(資料1)
平成21年度収支決算報告(案)および平成21年度会計監査報告(資料2)
理事・監事名簿(資料3)
平成22年度事業計画(修正案)(資料4)
平成22年度収支修正予算(案)(資料5)
入会希望者・退会希望者名簿(資料5)

5. 審議事項

- (1) 監事の辞退者の承認とその補充について
- (2) 理事の役割分担について
- (3) 平成22年度事業計画の確認と活動方針について
- (4) 平成22年度収支修正予算(案)について
- (5) 第5回学術集会(平成24年度)会長候補者について
- (6) 第3回学術集会企画委員会より
- (7) 第4回学術集会企画委員会より

第2回理事会

1. 日 時: 平成22年8月28日(土) 10:00~12:15
2. 場 所: いわて県民情報交流センター(アイーナ)7階 学習室5
3. 出席8名、委任状3名、辞任申請2名、欠席1名
4. 配布資料: 資料1 平成23年度事業計画(案)
資料2 平成23年度予算(案)
資料3 平成22年度評議員会次第(案)
資料4 平成21年度事業活動報告
資料5 平成21年度収支決算報告(案)、監査報告
資料6 平成22年度事業計画(修正案)
資料7 平成22年度修正予算(案)
資料8 平成22年度総会次第(案)
資料9 入退会審査資料
資料10 平成22年度庶務報告
資料11 平成22年度編集委員会活動経過

5. 審議事項

- (1) 平成23年度事業計画(案)
- (2) 平成23年度予算(案)
- (3) 評議員会次第(案)
- (4) 総会次第(案)
- (5) 理事の辞任の承認とその補充について
- (6) 編集委員の辞任の承認とその補充について

(7) 学会誌配布先について

(9) 総会議事録の作成と点検について

2) 評議員会

1 . 日 時 : 平成22年10月 3 日(日) 10:30 ~ 12:00

2 . 場 所 : いわて県民情報交流センター 7 階 アイーナ 学習室 4

3 . 配布資料 : 平成21年度事業活動報告(資料 1)

平成21年度収支決算報告(案)(資料 2)

平成21年度会計監査報告(資料 3)

平成22年度事業計画(修正案)(資料 4)

平成22年度収支予算(修正案)(資料 5)

平成23年度事業計画(案)(資料 6)

平成23年度収支予算(案)(資料 7)

平成22年度総会次第(資料 8)

平成22年度第 2 回理事会議事録(資料 9)

4 . 出席者

5 . 審議事項

(1) 平成21年度事業活動報告

(2) 平成21年度収支決算および平成21年度会計監査報告

(4) 平成22年度事業計画(修正案)

(5) 平成22年度収支予算(修正案)

(5) 平成23年度事業計画(案)

(6) 平成23年度収支予算(案)

(7) 平成22年度総会次第

(8) 評議員、監事の辞任の承認および補充について

(9) 岩手看護学会第 5 回学術集会(平成24年度) 会長の候補選出について

資料 2

平成22年度 庶務報告

1 . 会員数について

平成22年9月30日現在 171名

入会者内訳

平成19年度 72名 , 平成20年度 76名 , 平成21年度 35名 ,

平成22年度 12名

退会者内訳

平成20年度 1 名 , 平成21年度 17名 , 平成22年度 5 名

会費未納者内訳

平成21年度 12名 , 平成22年度 58名

資料3

平成22年10月3日

平成22年度編集委員会活動経過報告

1. 編集委員会構成員・役割分担

(任期:平成21年4月1日～平成23年3月31日)

委員長 兼松百合子

副委員長 工藤朋子

論文担当 蛸崎奈津子 工藤朋子 高橋有里 田辺有理子 千田睦美

遠藤良仁 (平成22年8月28日より)

庶務担当 齋藤貴子 (高橋司寿子:育休中)

出版・学会誌ホームページ管理 (井上都之:7月31日辞任)

学会誌のPR・投稿促進 箱石恵子 中下玲子

その他 浅沼優子 (平成22年3月31日まで庶務担当)

2. 学会誌編集・発刊

第4巻第1号 web版発刊 6月30日 冊子版発刊 8月

第4巻第2号 編集 12月末日発刊予定

3. 会議

第1回編集委員会 平成22年8月31日 14:00～18:30 (於アイーナ)

出席者7名 欠席者3名

原著論文1編の受理

編集作業手順、使用する文書、投稿論文のフォーマット・サポート体制等の確認と修正

web版発刊や学会誌ホームページ管理等について、学会HPの改築に併せて学会誌関係の部分に含まれる編集委員会のサイトの内容を検討する。

会員にとって魅力ある学会誌にするために、学術集会の内容、会員の研究領域、関連学会・研究会情報、依頼原稿等を今後検討していく。

チラシ「論文投稿支援のご案内」の配布と原稿作成実技のプレゼンテーションについて、10月16日の学術集会においての実施について学会長に相談する。

その他、メール会議を必要に応じて行った。

資料4

平成21年度 事業活動報告

1. 会員

会員数165名 (3月31日現在)

入会者内訳

平成19年度72名, 平成20年度76名, 平成21年度35名

退会者内訳

平成20年度1名, 平成21年度17名

会費未納者内訳

平成20年度0名, 平成21年度14名

2. 第2回学術集会開催

期 日 平成21年10月17日(土)

会 場 岩手県立大学

会 長 白畑範子(岩手県立大学)

メインテーマ 実践知の共有 - いわてから看護の発信 -

めんこいセミナー開催 講師：福島裕子(岩手県立大学)

3. 学会誌発行

第3巻第1号 2009年8月31日発行

第3巻第2号 2009年12月31日発行

4. 評議員および理事選挙の実施

選挙管理委員会により評議員選挙および理事選挙を実施し、理事会推薦を合わせて評議員20名、理事10名、監事2名を選出した。総会において承認を得た。

5. 総会開催

期 日 平成21年10月17日(土)

会 場 岩手県立大学

出席者35名、委任状57名、合計92名(9月31日現在の会員数166名)

6. 運営に関する会議

1) 理事会

第1回理事会(議事録は学会誌第3巻第1号に掲載)

1. 日 時：平成21年4月26日(日)10:00～12:00

2. 場 所：いわて県民情報交流センター(アイーナ)7階 学習室1

3. 審議事項

1) 平成20年度事業活動報告(案)

- ・ 庶務より
- ・ 編集委員会より
- ・ 第1回学術集会

2) 平成20年度収支決算報告(案)

3) 平成20年度会計監査報告

4) 平成21年度事業計画(修正案)について

5) 平成21年度収支予算(修正案)について

6) 第3回学術集会(平成22年度)会長候補者について

7) 会員入退会について

第2回理事会(議事録は学会誌第3巻第2号に掲載)

1. 日時：平成21年8月1日(日)9:30～12:00

2. 場所：いわて県民情報交流センター(アイーナ)7階 学習室2

3. 審議事項

1) 評議員選挙結果について(選挙管理委員会からの報告)

2) 理事会指名評議員の選出

3) 平成22年度事業計画(案)

4) 平成22年度予算(案)

5) 評議員会次第(案)

- 6) 総会次第(案)
- 7) 第3回学術集会(平成22年度)会長候補者について
- 8) 第4回学術集会(平成23年度)会長候補者について
- 9) 会員入退会について

2) 評議員会(議事録は学会誌第3巻第2号に掲載)

- 1. 日 時: 平成21年10月10日(土)14:00~16:00
- 2. 場 所: いわて県民情報交流センター(アイーナ)7階 学習室5
- 3. 審議事項
 - 1) 平成20年度事業活動について
 - 2) 平成20年度収支決算および平成20年度会計監査について
 - 3) 平成21年度事業計画(修正案)
 - 4) 平成21年度収支予算(修正案)
 - 5) 平成22年度事業計画(案)
 - 6) 平成22年度収支予算(案)
 - 7) 平成22年~平成24年度評議員(案)
 - 8) 平成22年~平成24年度理事・監事(案)
 - 9) 平成22年~平成24年度理事長および副理事長(案)
 - 10) 評議員の欠員について
 - 11) 第3回学術集会会長の選出について
 - 12) 第4回学術集会会長の選出について
 - 13) 学会誌投稿規則の改訂について

資料 5

平成 21 年度岩手看護学会収支決算報告（案）

I. 収入の部

（単位：円）

費 目	予算額	決算額	増 減	備 考
1. 会費	750,000	790,000	40,000	5,000 円×158 人 20 年度会費 7 人 21 年度会費 151 人
2. 雑収入	0	278,174	278,174	第 2 回学術集会より寄付 204,532 円、兼松百合子氏 より寄付、医学中央雑誌よ り、学会誌販売、利子
3. 繰越金	986,265	986,265	0	
合 計	1,736,265	2,054,439	318,174	

II. 支出の部

（単位：円）

費 目	予算額	決算額	増 減	備 考
1. 編集委員会 活動費	850,400	546,582	303,818	学会誌発行 3 回、英文タイ トル等校閲、第 1 回学術集 会講演テーブル起こし、英文 投稿書類の翻訳、編集委員 会旅費等
2. 学術集会開催 助成費	50,000	50,000	0	第 2 回学術集会への助成
3. 事務費	90,000	68,701	21,299	評議員選挙封筒印刷代等
4. 会議費	140,000	118,947	21,053	理事会旅費、選挙管理委員 会旅費、茶菓代等
5. 通信費	125,000	58,980	66,020	学会誌等郵送料、往復はが き、切手代
6. アルバイト代	50,000	14,000	36,000	郵送作業
7. 予備費	430,865	10,000	420,865	第 2 回学術集会めんこいセ ミナー講師謝金
合 計	1,736,265	867,210	869,055	



III. 差引残額

（収入合計額）2,054,439 円－（支出合計額）867,210 円＝（残金）1,187,229 円

残金 1,187,229 円は、次年度へ繰り越します。

上記のとおり適正に処理されていることを認める。

平成 22 年 4 月 / 日

監事 白 畑 乾 子 
稲 葉 洋 子 

岩手看護学会会則

第一章 総則

- 第1条 本会は、岩手看護学会(Iwate Society of Nursing Science)と称す。
- 第2条 本会の事務局を、岩手県立大学看護学部内(〒020-0193岩手県滝沢村滝沢字巣子152-52)に置く。
- 第3条 本会は、看護学の発展と会員相互の学術的研鑽をはかることを目的とする。
- 第4条 本会は、第3条の目的を達成するため次の事業を行う。
- (1) 学術集会の開催
 - (2) 学会誌の発行
 - (3) その他本会の目的達成に必要な事業

第二章 会員

- 第5条 本会の会員は、本会の目的に賛同し看護を実践・研究する者ならびに看護に関心のある者で、所定の年会費を納入し、理事会の承認を得た者をいう。
- 第6条 本会に入会を認められた者は、所定の年会費を納入しなければならない。
- 第7条 会員は、次の理由によりその資格を喪失する。
- (1) 退会
 - (2) 会費の滞納(2年間)
 - (3) 死亡または失踪宣告
 - (4) 除名
- 2 退会を希望する会員は、理事会へ退会届を提出しなければならない。
- 3 本会の名誉を傷つけ、または本会の目的に反する行為のあった会員は、評議員会の議を経て理事長が除名することができる。

第三章 役員・評議員および学術集会会長

- 第8条 本会に次の役員をおき、その任期は3年とし再任を妨げない。但し、引き続き6年を超えて在任することとはできない。
- (1) 理事長 1名
 - (2) 副理事長 1名
 - (3) 理事 10数名(理事長 副理事長を含む)
 - (4) 監事 2名
- 第9条 役員の選出は、次のとおりとする。
- (1) 理事長は、理事の互選により選出し、評議員会の議を経て総会の承認を得る。
 - (2) 副理事長は、理事の中から理事長が指名し、評議員会の議を経て総会の承認を得る。
 - (3) 理事および監事は、評議員会で評議員の中から選出し、総会の承認を得る。
- 第10条 役員は次の職務を行う。
- (1) 理事長は、本会を代表し、会務を統括する。
 - (2) 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるときはこれを代行する。
 - (3) 理事は、理事会を組織し、会務を執行する。
 - (4) 監事は、本会の事業および会計を監査する。
- 第11条 本会に、評議員を置く。評議員の定数及び選出方法は、別に定める。
- 第12条 評議員の任期は、3年とし再任を妨げない。但し、引き続き6年を超えて在任することとはできない。
- 第13条 評議員は、評議員会を組織し、この会則に定める事項のほかには理事長の諮問に応じ、本会の運営に関する

重要事項を審議する。

第14条 本会に、学術集会会長を置く。

第15条 学術集会会長は、評議員会で会員の中から選出し、総会の承認を得る。

第16条 学術集会会長の任期は、1年とし再任は認めない。

第17条 学術集会会長は、学術集会を主宰する。

第四章 会議

第18条 本会に、次の会議を置く。

(1) 理事会

(2) 評議員会

(3) 総会

第19条 理事会は、理事長が招集し、その議長となる。

2 理事会は、毎年1回以上開催する。但し、理事の3分の1以上から請求があったときは、理事長は、臨時に理事会を開催しなければならない。

3 理事会は、理事の過半数の出席をもって成立とする。

第20条 評議員会は、理事長が招集しその議長となる。

2 評議員会は、毎年1回開催する。但し、評議員の3分の1以上から請求があったときおよび理事会が必要と認めたとき、理事長は、臨時に評議員会を開催しなければならない。

3 評議員会は、評議員の過半数の出席をもって成立とする。

第21条 総会は、理事長が召集し、学術集会会長が議長となる。

2 総会は、毎年1回開催する。但し、会員の5分の1以上から請求があったときおよび理事会が必要と認めたとき、理事長は、臨時に総会を開催しなければならない。

3 総会は、会員の10分の1以上の出席または委任状をもって成立とする。

第22条 総会は、この会則に定める事項のほか次の事項を議決する。

(1) 事業計画および収支予算

(2) 事業報告および収支決算

(3) その他理事会が必要と認めた事項

第23条 総会における議事は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第五章 学術集会

第24条 学術集会は、毎年1回開催する。

第25条 学術集会会長は、学術集会の運営および演題の選定について審議するため、学術集会企画委員を委嘱し、委員会を組織する。

第六章 会誌等

第26条 本会は、会誌等の発行を行うため編集委員会を置く。

第七章 会計

第27条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日で終わる。

第八章 会則の変更

第28条 本会の会則を変更する場合は、理事会および評議員会の議を経て総会の承認を必要とする。

2 前項の承認は、第23条の規定にかかわらず出席者の32以上の賛成を必要とする。

第九章 雑則

第29条 この会則に定めるもののほか，本会の運営に必要な事項は，別に定める．

附則

この会則は，平成19年 6 月23日から施行する．

岩手看護学会 役員名簿(2010年11月現在)

理事長	武田 利明	岩手県立大学
副理事長	畠山なを子	岩手県立磐井病院
理 事	浅沼 優子 (庶務・編集委員)	岩手県立大学
	小山奈都子 (庶務)	岩手県立大学
	兼松百合子 (編集委員長)	前岩手県立大学
	菊池 和子 (会計)	岩手県立大学
	木内 千晶 (会計)	岩手県立大学
	工藤 朋子 (副編集委員長)	岩手県立大学
	白畑 範子 (ホームページ)	岩手県立大学
	平野 昭彦 (庶務)	岩手県立大学
	三浦まゆみ	岩手県立大学
監 事	安藤 広子	岩手県立大学
	菊池田鶴子	岩手県立江刺病院
評議員	田中 千尋	岩手県立高田高等学校
	箱石 恵子 (編集委員)	岩手県立中央病院
	林本 郁子	岩手県立中央病院
	三浦 幸枝	岩手医科大学附属病院
	村上 繁子	岩手県立南光病院

(五十音順, 敬称略)

岩手看護学会入会手続き

本学会への入会を希望される方は、以下の要領に従ってご記入の上、入会申込書を岩手看護学会事務局までご返送ください。

1. 入会申込書に必要事項を漏れなくご記入ください。記入もれがある場合には、再提出をお願いすることがあります。提出された書類は返却いたしませんのでご注意ください。
2. 入会申込書は楷書ではっきりとお書きください。
3. 「会員名簿記載の可否」欄では、どちらかに をつけ、「項目掲載の可否」欄には記載不可の情報にレ印をお書きください。会員名簿記載が可の場合、レ印のない情報に関して会員名簿に記載いたします。
4. 入会申込書に年会費の払込金受領証(コピー)を添付し、下記事務局まで郵送してください。
(1) 年会費5,000円です。会員の種類は正会員のみです。
(2) 郵便局に備え付けてある郵便振替払込用紙、または当学会が作成した払込用紙にて年会費をお振り込みください。

<p>・口座番号： 02210 - 6 - 89932</p> <p>・加入者名： 岩手看護学会</p>
--

ご注意 「払込金受領証」を必ず受け取り、受領印があることをご確認ください。

- (3) 振込手数料は入会希望者のご負担ください。
- (4) 「払込金受領証」のコピーまたは原紙を入会申込書の裏に貼付してください。
- (5) 入会申込書を封書でお送りください。

ご注意 振り込み手続きだけでは入会申し込みは完了いたしません。
入会申込書を必ずお送りください。

5. 入会申込は、随時受け付けています。

<事務局> 〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巣子152-52

岩手県立大学看護学部内 岩手県看護学会事務局 平野 昭彦

FAX:019-694-2239 E-mail:iwatekango@ml.iwate-pu.ac.jp

HP:<http://iwatekangogakkai.res.iwate-pu.ac.jp/nyukai/index.html>

No. (事務局記載欄)

岩手看護学会 入会申込書

岩手看護学会理事長 殿

貴会の趣旨に賛同し会員として入会いたします。

注1) 性別・郵送物送付先・職種については各欄のいずれかの番号に丸をお付けください。

注2) 必ず全ての項目に記入してください。

申込日	平成()年()月()日	
氏名	フリガナ	性別
		1. 男 2. 女
勤務先名称	フリガナ	
現在の職種 (ひとつに○)	1. 保健師 2. 助産師 3. 看護師 4. 准看護師 5. 養護教諭 6. 看護教員 7. その他()	
連絡先 (どちらかに○)	1. 勤務先 2. 自宅	
	〒	
	TEL:	
	FAX:	
	E-mail:	
最終卒業校		
実践・関心領域		
会員名簿掲載の可否 (どちらかに○)	可 ・ 不可	
掲載してよい項目	<input type="checkbox"/> 勤務先名称 <input type="checkbox"/> 連絡先住所 <input type="checkbox"/> 連絡先 TEL <input type="checkbox"/> 連絡先 FAX <input type="checkbox"/> 連絡先 E-mail	

注 3) 裏面に年会費払込金受領証のコピーを必ず添付してください。

添付のない場合は入会申込が無効となります。

必要事項を記入し、郵送にて下記の事務局までお送りくださいますようお願いいたします。

<事務局> 〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巣子 152-52

岩手県立大学 看護学部内 岩手看護学会 事務局 平野昭彦

FAX: 019-694-2239 E-mail: iwatekango@ml.iwate-pu.ac.jp

岩手看護学会誌投稿規則

1. 総則

- (1) 本学会は、看護学における研究成果の発表を目的として、岩手看護学会誌 Journal of Iwate Society of Nursing Science を年 2 回発行する。
- (2) 刊行については、本学会が編集委員会を設置し、その任にあたる
- (3) 本雑誌は、オンライン (Internet) および紙媒体にて出版する。

2. 投稿規定

(1) 投稿資格

- 1) 筆頭執筆者は本学会の会員とする。
- 2) 本学会が依頼した場合には前項の限りではない。
- 3) 日本以外の国から投稿する者については会員以外でも投稿資格を有するものとする。
- 4) その他の投稿者については編集委員会が決定する。

(2) 著作権

本誌掲載論文の著作権は本学会に帰属する。

投稿者は、版権の利用に当たって、本規則の附則に従う。

(3) 論文の種類

本誌に掲載する論文は、総説、原著、事例報告、研究報告、短報、その他とし、論文として未発表のものとする。審査の段階で編集委員会が論文の種類の変更を指示することがある。

・ 総説

看護学に関わる特定のテーマについての知見を集め、文献等をレビューし、総合的に学問的状況を概説したもの。

・ 原著

看護学に関わる研究論文のうち、研究そのものに独創性があり、新しい知見を含めて体系的に研究成果が記述されており、看護学の知識として意義が明らかであるもの。原則として、目的、方法、結果、考察、結論の 5 段の形式で記述されたものでなければならない。

・ 事例報告

臨床看護上貴重な臨床実践例の報告で、臨床看護実践または看護学上の有益な資料となるもの。

・ 研究報告

看護学に関わる研究論文のうち、研究成果の意義が大きく、看護学の発展に寄与すると認められるもの。原則として、目的、方法、結果、考察、結論の 5 段の形式で記述されたものでなければならない。

・ 短報

看護学に関わる研究論文のうち、新しい知識が含まれており、看護学の発展に寄与することが期待できるもの。原則として、目的、方法、結果、考察、結論の 5 段の形式で記述されたものでなければならない。

・ その他 (論壇等)

看護学に関わる論文。

(4) 論文の提出

論文は編集委員会の指示に従って提出する。

(5) 論文の採否

投稿論文の採否の決定は、査読を経て編集委員会が行う。査読者は編集委員会が依頼する。原則として査読者は 2 名とする。査読者間の意見の相違がある場合は編集委員会が別の 1 名に査読を依頼することができる。査読は

別途定める査読基準ならびに査読ガイドラインに従って行う。

投稿論文の審査過程において、編集委員会からの修正等の要望に対し3か月以上著者からの回答がなかった場合には自動的に不採用とする。

(6) 編集

論文の掲載順序その他編集に関することは、編集委員会が行う。

(7) 校正

初校は著者校正とする。著者校正は原則として字句の訂正に留めるものとする。再校以後は編集委員会にて行う。

(8) 別刷り

50部単位で著者校正時に申請する。別刷りにかかる費用は著者の負担とする。

(9) 倫理的配慮

人及び動物が対象とされる研究は、倫理的に配慮され、その旨が本文中に明記されていること。具体的には下記の倫理基準を満たしていること。また、原則として研究倫理審査委員会の審査を受けていること。

- ・ 人体を対象とした研究では、「ヘルシンキ宣言」に従うこと。
- ・ 動物を対象とした研究では、「岩手県立大学動物実験倫理規定」または同等水準の倫理基準を満たしていること。
- ・ 調査研究については、「疫学研究に関する倫理指針」または同等水準の倫理基準を満たしていること。
- ・ ヒトゲノム・遺伝子解析を対象とした研究は、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」および「遺伝子治療臨床研究に関する指針」または、これと同等水準の倫理基準を満たしていること。

(10) 投稿手続き

- ・ 投稿申込を岩手看護学会ホームページ投稿案内(<http://iwatekangogakkai.res.iwate-pu.ac.jp/gakkaishi/tokoannai.html>)より行う。申込の際は論文の種類、タイトル、執筆者の氏名、電子メールアドレス、会員番号、連絡先住所および郵便番号を明記する。
- ・ ホームページ中の投稿チェックリストに記載する。
- ・ 編集委員会の指示に従ってe-mailに添付して論文を投稿する。
- ・ 編集委員会が、投稿論文が投稿規則にしたがっていることを確認した時点で投稿手続きが終了し、この日をもって受付日とする。また、査読を経て、編集委員会が雑誌掲載を許可した日をもって受理日とする。
- ・ 採用された論文の掲載に研究倫理審査書、共同研究者同意書等が必要とされた場合には、論文受理通知後2週間以内に編集委員会宛てにそれらの書類を提出すること。
- ・ 著者は受理日以降であれば、論文掲載証明を請求することが出来る。

(11) 掲載料

掲載料は無料とする。ただし、カラー写真掲載に関する費用は実費負担とする。

3. 執筆要領

(1) 論文の記述

- 1) 論文原稿は、和文または欧文(原則として英文)とし、A4サイズの頁設定を用い、Microsoft Word書類とする。
- 2) 論文の分量は、表題、要旨、本文、引用文献等全てを含め、組み上がり頁数で以下の規定以内とする。
 - ・ 総説: 12頁(本文と引用文献(図表含む)で20,000字相当)
 - ・ 原著: 12頁(本文と引用文献(図表含む)で20,000字相当)
 - ・ 事例報告: 6頁(本文と引用文献(図表含む)で10,000字相当)
 - ・ 研究報告: 12頁(本文と引用文献(図表含む)で20,000字相当)
 - ・ 短報: 4頁(本文と引用文献(図表含む)で7,000字相当)
 - ・ その他(論壇等): 内容により編集委員会が決定する。

- 3) 和文原稿は、原則として現代かなづかい、JIS第2水準までの漢字を用いる。外国の人名、地名、術語は原語のまま表記する。学術的に斜字体で表記されている術語は斜字体で表記する。単位および単位記号は、原則としてSI単位系に従うものとする。和文原稿の句読点はピリオド及びカンマとする。
 - 4) 論文は、表題、著者名、所属、要旨、本文、引用文献、表題(英文)、著者名(英文)、所属(英文)、Abstract(英文要旨)の順に作成する。本文が欧文である場合には、表題以下の英文部分から始め、和文の表題、著者名、所属、要旨を順に最後に記載する。
 - 5) 論文(その他を除く)には400字程度の和文要旨をつけ、原著については250語程度のAbstract(英文)もつける。原著以外の論文にAbstractをつけてもよい。
 - 6) 欧文(英文Abstractを含む)は原則としてNative Checkを受けたものとする。
 - 7) 5語以内のキーワード(和文および英文それぞれ)をつける。
 - 8) 文書フォーマットは下記のものとする(編集委員会が指定する投稿論文テンプレートを用いる)。
 - ・ 本文および引用文献は2段組み、24文字×44行、文字は10ポイント、その他は1段組みとする。
 - ・ 文書余白は上下25mm、左右20mmとする。なお余白部分は編集委員会が頁数、書誌事項、受付日、受理日の表示のために利用する。
 - ・ 本文和文書体はMS-P明朝、見出しはMS-Pゴシック(11ポイント)を用いる。本文欧文書体はTimes New Romanを用いる。
 - ・ 上付き、下付き文字はMS-P明朝を用い、Microsoft Wordの機能を用いて作成する。
 - ・ 要旨及びAbstractは、左右15mmインデントする。
 - 9) 丸付き数字、ローマ数字等の機種依存文字は使用しない。
 - 10) その他、文書の形式、書式等は原則として投稿論文テンプレートに従う。
- (2) 図表の掲載
- 1) 図表は、1段(7.5cm幅)あるいは2段(16.5cm幅)のサイズで本文中に掲載する。
 - 2) 図表中の表題、説明文等の文字はMS-Pゴシック6または8ポイントとする。
 - 3) 図は原則としてjpg、gifあるいはpngフォーマットにより作成する。写真も同様とする。Microsoft ExcelまたはPowerPointから直接貼り付けることも認める。
 - 4) 表はMicrosoft Excelにより作成し、本文中に貼り付ける。
 - 5) 図には論文内でそれぞれ通し番号を付し、表題とともに、「図.1 表題」と図の直下に中央揃えにて記載する。
 - 6) 表には論文内でそれぞれ通し番号を付し、表題とともに、「表.1 表題」と表の直上に左寄せにて記載する。
- (3) 文献の記載
- 引用文献の記述形式は「生物医学雑誌に関する統一規定Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals」(‘Vancouver style’)に準ずる。
- 1) 文献を引用する場合は、本文の引用箇所の肩に上付き文字で¹⁾⁻²⁾のように表し、最後に一括して引用順に掲げる。
 - 2) 記載の様式は下記のようにする。
 - ・ 雑誌の場合.....著者名. 表題名. 雑誌名 年次;巻(号):頁.
なお、頁は数字のみ。雑誌名は和雑誌は医学中央雑誌、洋雑誌はMEDLINEに従い省略形を用いる、それらに掲載されていないものは正式名称を用いる。
 - ・ 単行本の場合.....著者名. 書名. 版. 発行地: 発行所; 年次. または、著者名. 書名. 版. 編集者名. 発行地: 発行所; 年次. 頁.
なお、頁は数字のみ。
 - ・ 訳本の場合.....著者名. 書名. 版. 翻訳者名. 発行地: 発行所; 年次. 頁.
 - ・ 新聞記事の場合.....著者名. 記事タイトル(コーナー名). 新聞名(地域版の場合にはその名称、版、朝夕刊の別). 掲載年月日; 欄:位置(段)なお、著者名のない場合は省略して良い。

- ・ ホームページの場合.....著者名. タイトル: サブタイトル[インターネット]. 発行元: 発行者; 発行年月日[更新年月日]. URL. (原則として, 公的機関等のサイトにおいて情報が継続して同一URL上にあることが確実であるような場合のみ引用することが出来る.)

3) 著者名の記載については下記の例に従う.

- ・ 和文の場合..... 5 名以下のときは全員の姓名, 6 名以上のときは, 筆頭から 5 名の姓名の後に「, 他」をつける.
- ・ 欧文の場合..... 5 名以下のときは姓, 名のイニシャル, 6 名以上の時は 5 名までの姓, 名のイニシャルに「, et al.」をつける.

4) 書体は本文に準じる.

(4) 英文投稿は本規則のほか [Journal of Iwate Society of Nursing Science Submission Guidelines](#) を参照すること.

附則 1. 著作権について

- (1) 学会誌掲載内容(学会ホームページ上で公開する電子媒体を含む)の著作権は, 全て学会に帰属する.
- (2) 学会誌内で掲載されている図表など原著性の高い内容を他の雑誌や書籍刊行物にて使用する際には, 学会誌編集委員長に対して必ず書状にて許諾申請を行うものとする. 許諾は編集委員会宛て郵送にて申請する(電子メールでの申請は受け付けない).
- (3) 前項の許諾申請は 1. 引用する学会誌の論文の号・巻・頁・年度・タイトル・筆頭著者名・使用したい図表等の掲載頁とその図表番号, 2. 利用目的, 3. 依頼者住所・氏名・電話番号・FAX番号・電子メールアドレスを明記し, 自署署名を付して申請すること.
- (4) 使用許可のおりた図表等の利用に関しては脚注に(あるいは参考文献として)原著を引用文献として明示すること.

附則 2. 本規則の適用期間

本規則は平成19年 6 月23日より発効する.

附則 3. 本規則の改訂

本規則の改訂は平成20年10月 4 日から施行する.

附則4. 本規則の改訂

本規則の改訂は平成21年10月17日から施行する.

Journal of Iwate Society of Nursing Science Submission Guidelines

1. General Guidelines

- (1) The Journal of Iwate Society of Nursing Science is published by the Society two times a year for the purpose of sharing research results in nursing.
- (2) The editorial committee is established by the Society to carry out publishing responsibilities.
- (3) The journal is published online and on paper.

2. Submission Rules

(1) Qualifications for Submission

- 1) The first author listed must be a member of the Society.
- 2) Authors requested by the Society are exempt from the preceding qualification.
- 3) Authors residing outside Japan are not required to be members of the Society.
- 4) Other authors may be qualified by the editorial committee.

(2) Article Categories

Articles published in the Journal must be review articles, original articles, case reports, research reports, brief reports and others, which are unpublished. In the review process, the editorial committee may suggest a change in categories.

- Review Article
A comprehensive evaluation and discussion based on a critical review of literature concerning a specific theme in nursing.
- Original Article
A research article in nursing with originality, including new knowledge and systematically describing research results. It should contain clear significance for knowledge in nursing science. It must be presented systematically consisting of purpose, method, results, discussion and conclusion.
- Case Report
A report of a valuable clinical example of nursing. It will provide beneficial information for nursing practice and nursing science.
- Research Report
A research article in nursing with a significant research conclusion, which will be recognized as contributing to the development of nursing science. The article must consist of purpose, method, results, discussion and conclusion.
- Brief Report
A short research article in nursing containing new knowledge, expected to contribute to the development of nursing science. The article must consist of purpose, method, results, discussion and conclusion.
- Other articles
Articles in nursing, such as concerning nursing issues.

(3) Article Submission

Articles are to be submitted following the instructions of the editorial committee.

(4) Review Process

The decision on submitted articles concerning acceptance for publication is carried out by the editorial committee, based on the evaluation of two anonymous reviewers at the request of the committee. If there are differences of opinion between the reviewers, an additional reviewer will be requested. The review is conducted in accordance with the reviewing standards and guidelines. If the author does not respond to the editorial committee's comments on modifications for more than three months, the article will automatically be rejected.

(5) Editing

The publication sequence of articles and other editorial issues are performed by the editorial committee.

(6)Proofs

The first proofreading will be conducted by the author. Corrections by the author will be limited to the correction of words and phrases. Further proofreading will be performed by the editorial committee.

(7)Reprints

The author may ask for reprints in blocks of 50 copies during the proofreading process. The cost will be the responsibility of the author.

(8)Ethical Considerations

Research on human subjects or animals must include a statement of ethical consideration. The ethical standards written below must be fulfilled. The research protocol must be approved by the Ethical Committee of the institution.

- Research on the human body must follow the “ Helsinki Declaration ”.
- Research on animals must meet the ethical standards of the “ Iwate Prefectural University Ethical Provisions for Animal Experiments ” or other similar standards.
- Investigative research studies must meet the ethical standards of the “ Ethical Guidelines on Epidemiologic Study ” or similar standards.
- Research on the human genome and genetic analysis must meet the ethical standards of the “ Ethical Guidelines for Human Genome and Genetic Analysis ” and “ Guidelines for Clinical Research on Gene Therapy ” or similar standards.

(9)Submission Procedures

- Applications for submission should be made through the Iwate Society of Nursing Science web site (<http://iwatekangogakkai.res.iwate-pu.ac.jp/gakkaishi/tokoannai.html>) .
Applicants must write the category of the article, title, name of the author, e-mail address, membership number and postal address including postcode.
- Articles should be submitted by e-mail following the instructions of the editorial committee.
- Once the editorial committee has confirmed that the submitted articles conforms to the submission rules, the submission procedures are completed and this date is considered the date of receipt. The date when the editorial committee accepts the article for publication, based on the reviewers' evaluation, is considered the date of acceptance.
- The author of an article accepted for publication for which a joint research agreement and ethical screening report are necessary must supply those documents to the editorial committee within two weeks of notification of acceptance of the article.
- The author may request a proof of publication for the article after the date of acceptance.

(10)Publication Costs

The costs for publication are free. However, publication costs of color photographs are the responsibility of the author.

3. Writing Guidelines

A template for manuscripts is available on the Iwate Society of Nursing Science web site

(<http://iwatekangogakkai.res.iwate-pu.ac.jp/gakkaishi/tokoannai.html>) (MS Word format)

(1)Description of the Article

1)The submitted article is to be in Japanese or English, using A4 page settings and written in MS Word.

2)The length of the article, including the title, abstract, text and references must be composed within the page limits described below.

- Review Article: 12 pages, about 6000 words including text, references, figures and tables.
- Original Article: 12 pages, about 6000 words including text, references, figures and tables.
- Case Report: 6 pages, about 3000 words including text, references, figures and tables.
- Research Report: 12 pages, about 6000 words including text, references, figures and tables.

- Brief Report: 4 pages, about 2000 words including text, references, figures and tables.
- Other articles: The editorial committee will decide on the length of the article according to content.

3) Measurements and measurement symbols should conform to System International (SI) units.

4) The article should be presented in the following order: title, name of the author, affiliation, abstract, text, references.

5) An abstract of 250 words should be attached to articles except those categorized as Other articles.

6) 5 or fewer keywords should be included in all articles.

7) The format of the article should be as follows (using the template for articles for submission designated by the editorial committee)

- The text and references should be two-columned, 44 lines in 10 point font and everything else should be in one column.
- The top and bottom margins should be set at 25mm and the left and right margins should be set at 20mm. Margins will be used by the editorial committee to display page numbers, the name, volume and number of the journal and the dates of receipt and acceptance.
- The typeset for English text should be Times New Roman.
- The abstract should be indented by 15mm.

8) Numbers enclosed in circles, roman numerals and similar machine-dependent characters should not be used.

9) For other rules for the format of the article, the template for articles for submission should be followed.

10) If the author is Japanese, the Japanese title of the article, the name of the author in Japanese, the name of the affiliation in Japanese and an abstract in Japanese should be attached.

(2) Insertion of Diagrams

1) Figures and tables should be sized at 1 column (width 7.5cm) or 2 columns (width 16.5cm) and be inserted into the text.

2) The letters of the title and the explanation of figures and tables should be in 6 or 8 point font.

3) Figures should be created using jpg, gif or png formats. This also applies to photographs. Direct copying and pasting from Microsoft Excel or PowerPoint is also acceptable.

4) Tables should be created using Microsoft Excel and inserted into the text.

5) Sequential numbers should be added to each figure in the article and e.g. " Fig 1. " and the title of the figure should be centered directly below each figure.

6) Sequential numbers should be added to each table in the article and e.g. " Table 1. " and the title of the table should be written directly above the table to the left.

(3) Description of References

Descriptions of references should be based on the " Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals " (i.e. ' Vancouver style ')

1) When references are cited, superscript expressed as 1), 2) etc. should be added in the citation area and the citations should be listed in order at the end of the article.

2) The description style should be as follows:

- Articles in journals: The name of the author. the title of the article. the title of the journal year; volume (number) pages. Pages should be in numbers.
- Books: The name of the author. the title of the book. version. the name of the editor. place of publication: publisher; year. pages.
- Newspaper articles: The name of the author. the title of the article. the title of the newspaper (edition). date: section: location (column number). If the name of the author was not stated, it may be omitted.
- Web sites: The name of the author. the title: the subtitle. place of publication: publisher; date of publication [updated date; cited date] URL.

3) Names of authors in references should be as follows:

If there are 5 or fewer authors, the last names and initials of the authors should be written. If there are 6 or more authors,

the last names and initials of the first five authors and 'et al.' should be written.

4) Typeset for references is the same as for the main text.

4. Copyrights

- (1) The copyrights of all articles and content of the Journal (including the online version on the web site) are reserved by the Society.
- (2) Before using diagrams and highly original items published in the Journal, users must apply for permission from the editorial committee of the Journal. (E-mail applications will not be accepted.)
- (3) An application for permission should include:
 - 1. The volume, number, pages, year, title of the article, the name of the first author listed and the page number or number of the diagram for which permission is sought.
 - 2. The purpose of use.
 - 3. The full name, address, telephone and fax number, e-mail address and signature of the applicant.
- (4) Diagrams and other items for which permission for use is granted must be stated as citation from the original article in footnotes or references.

岩手看護学会誌 論文投稿支援のご案内

岩手看護学会では、岩手看護学会誌を年2回発行しております。冊子体としての発刊のほかに、インターネットに対応した電子体でも発刊しております。また、「医学中央雑誌」に掲載されております。

論文には、「総説」「原著」「事例報告」「研究報告」「短報」「その他」と種類があります。院内でとりくまれている看護研究や日々のかかわりをまとめた事例研究、普段から取り組んでいる業務の改善などを、論文としてまとめてみてはいかがでしょうか。

岩手看護学会誌は、みなさまからの投稿で成り立っております。岩手看護学会では、みなさまの論文投稿の支援を、論文投稿支援窓口と編集委員会が行っております。平成22年10月16日に行われました第3回岩手看護学会学術集会では、岩手看護学会編集委員会企画セミナーとして、田辺有理子委員より「見て聞いて納得、実際のパソコン操作で学ぶ投稿原稿の作り方」を行いました。当日の資料（一部改変）を掲載いたしますので、論文作成ならびに論文投稿に役立ててくだされば幸いです。

なお、論文投稿のメールアドレスが hensyu@jisns.jp へ変更になっています。

支援窓口、支援内容、問い合わせ先

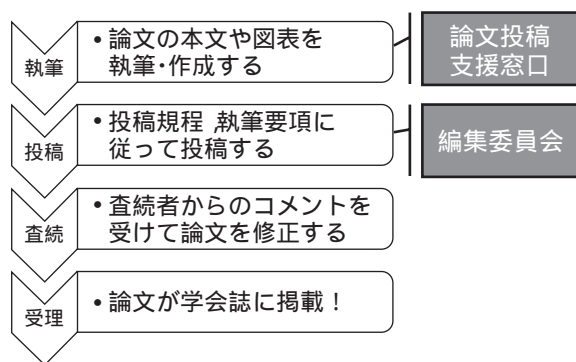
論文投稿支援窓口

- 論文の執筆に関する相談をお受けします。
- 担当者：武田利明、菊池和子
- 連絡先：shientanto@iwatekangogakkai.res.iwate-pu.ac.jp

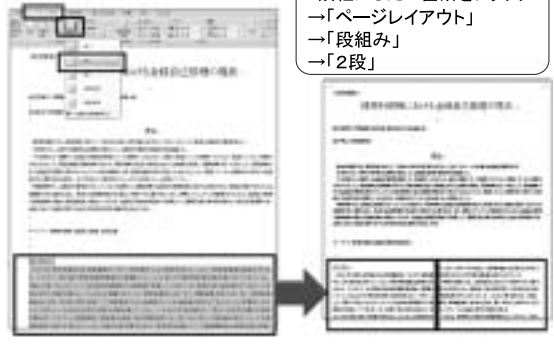
編集委員会

- 投稿から校正までをお手伝いします。
- 担当：岩手看護学会編集委員会
- 連絡先：hensyu@jisns.jp （論文投稿のメールアドレスと同じ）

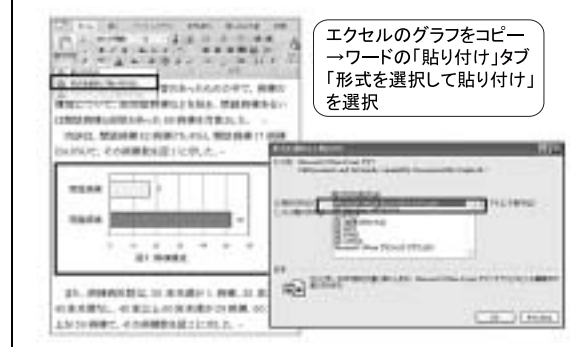
論文投稿の流れと本学会の投稿支援



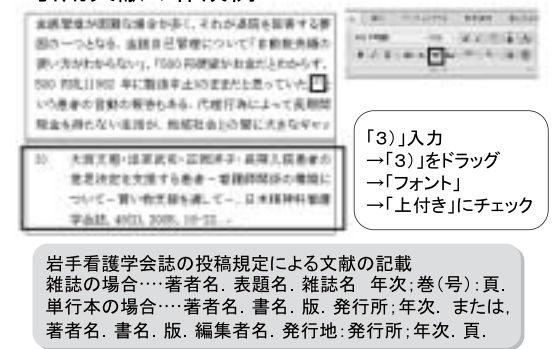
二段組みの作成例



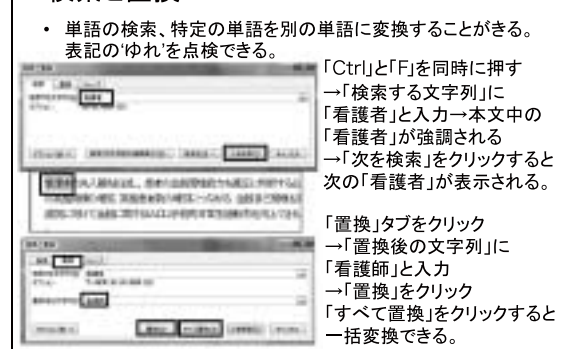
図表の貼り付け例



引用文献の作成例

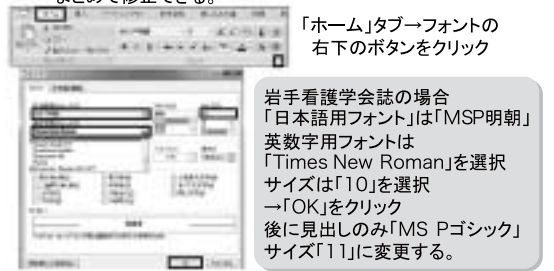


検索と置換



フォントの一括指定

- 日本語のフォントと英数字のフォントを一括で指定できる。
明朝体・ゴシック体・Centuryなど、混在したフォントを
まとめて修正できる。



査読者一覧(第3巻第1号 , 第3巻第2号 , 第4巻第1号 , 第4巻第2号)

安保 寛明	石井真紀子
石川みち子	石田 陽子
伊藤 綾子	菊池 和子
作間 弘美	佐々木幸子
佐藤奈美枝	白畑 範子
鈴木美代子	角川 志穂
土田 幸子	土屋 陽子
似鳥 徹	福島 裕子
藤澤 由香	三浦 幸枝
遊田由紀子	(五十音順、敬称略)

編 集 後 記

岩手看護学会誌第4巻第2号の発刊を迎えることができました。本号を無事、会員の皆様にお届けできるのも、論文をご投稿いただいた著者の方々、査読者の先生方のご協力あってのことと、この場をお借りして御礼申し上げます。

第4巻第2号には2篇の原著論文、一篇の事例報告が掲載されております。うち1篇は海外からの初めての投稿論文です。岩手県の看護の歩みに広く深く示唆を与えうる学会誌であるよう、編集委員として努力を続けていきたいと思っております。

今後も多くの皆さまからのご投稿をお待ちしております。(蛸崎 記)

編集委員

浅沼優子 遠藤良仁 蛸崎奈津子 兼松百合子(委員長) 工藤朋子(副委員長) 齋藤貴子 高橋司寿子 高橋有里
田辺有理子 千田睦美 中下玲子 箱石恵子 (五十音順)

Journal of Iwate Society of Nursing Science

Foreword

Sharing of Nursing Practice Wisdom for Development of Nursing in Iwate

Kazuko Kikuchi

1

Original Articles

Effect of Nutritional State on Susceptibility of the Tracheal Mucous Membrane to Injury Caused by Application of Suction Pressure: A Basic Study Using Rabbits

Akihiko Hirano

3

A Cross Cultural Comparison of Knowledge of Hypertension, Health Promoting Lifestyle, and Spirituality in Residents with Hypertension from Iwate Japan and Southeastern North Carolina USA

Jeanne Kemppainen, Perri Bomar, Kazuko Kikuchi, Hiroaki Ambo, Yuriko Kanematsu, Michiko Tsuboyama, Akiko Ando, Kyoko Noguchi, Sumiko Chiba

12

Case Report

Attempt of Nursing Intervention to Improve Motivation of Diabetes Patients for Exercise

Keiko Hakoishi

21

Iwate Society of Nursing Science Meeting Reports

Information on 4th Conference

29

Minutes of 2nd Board of Directors Meeting 2010

31

Minutes of 1st Board Council Meeting 2010

34

Minutes of General Meeting 2010

37

Agenda Materials of the General Meeting 2010

40

Constitution of the ISNS

47

Board of Directors and Councilors

50

Membership Application Information

51

Membership Application Form

52

Journal of Iwate Society of Nursing Submission Guidelines

57

Information on Support for Submission of Articles

61

Referee Index Editorial Postscript

63

Volume 4 Number 2 December 2010

Iwate Society of Nursing Science